

特集 親子で読む「TRENDY Junior」

# 好きを仕事に変える! 企業が語る

## 「子どもを伸ばす体験」

2020年度から小学校で全面実施した学習指導要領では、持続可能な社会の担い手の育成強化を打ち出すとともに、子どもたちの成長には、登山やキャンプ、農業体験、ボランティア活動、地域行事への参加など、さまざまな体験活動が重要な要素になるとしている。しかし、子どもの教育は学校や家庭だけで行うものではない。予測困難といわれる時代を迎えた今、子どもたちの「生きる力」を育み、伸ばすために、体験活動に力を入れる企業は少なくない。時代の要請に応じて子どもたちを応援する企業の取り組みや、そんな企業の最前線で活躍する人からのメッセージを紹介する。



文部科学省では、すべての子どもたちが夢と志を持って可能性に挑戦する上で必要となる力を確実に育んでいくために、子どもたちの体験活動を推進している。

「人生100年時代」「超スマート社会 Society5.0」という大転換期の最中に、予測困難な新型コロナウイルス感染症が世界を襲う一方で、自然災害の被害も増えている。

そうした時代にあって、未来を担う子どもたちは今、

何をどう学び、そこに社会はどう関わるべきか。なぜ体験活動が必要で、どのように展開していくのが望ましいのか——。子どもたちの将来を左右する重大なテーマについて、子どもや親の立場、教育現場や社会といった多様な視点から、専門家に話を伺った。

そこからは、学校や家庭だけではなく、地域、社会をけん引する企業の力が欠かせないことが鮮明に見えてくるだろう。

予測困難な時代を迎えて  
企業の役割がますます重要に！

# 子どもたちの未来を拓く体験活動

グローバル化、高度情報化、そして新型コロナウイルス感染症の拡大などにより、社会が劇的に変わろうとしている今、子どもたちへの教育の一環として体験活動、なかでも企業が提供する体験活動の重要性が高まっている。なぜ体験活動が必要なのか、企業にはどんなことが期待されているのか。文部科学省総合教育政策局で青少年の体験活動を推進する担当者の司会のもと、3人の学識者に語っていただいた。

**出席者**  
青木 康太郎氏 國學院大學 人間開発学部子ども支援学科 准教授  
池田 幸恭氏 和洋女子大学 人文学部心理学科 准教授  
京免 徹雄氏 筑波大学 人間系 助教

**司会**  
山本 裕之氏 文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 青少年教育室 事業係長  
※各氏の肩書または、座談会を行った2021年3月現在のものです。

## 子どもの成長を促す

### 多様な大人と触れ合う体験活動

**山本** 2020年度から小学校で全面実施した学習指導要領では、予測困難な社会で「生きる力」を育むために、体験活動の充実が打ち出されています。私自身、文部科学省で体験活動を推進していく立場にありますが、それには保護者や教育現場のみならず、地域や企業の協力も不可欠だと感じています。まずは、体験

活動の現状と意義について、お話しいただけますか。

**青木** 私は、国立青少年教育振興機構などで体験活動が子どもの心の成長にもたらす影響を調査・研究してきました。そうした研究から分かってきたのは、幼少期の体験活動が大人になっていく過程で非常に重要な役割を担っているということです。子どもはさまざまな体験を通じて、自分が大人になってから何ができるようになるのか、自分が得意なこと、社会に貢献できることは何かという

たちに多様な大人とのつながりを持たせることを考えていただきたいと思っています。

## キャリア教育にもつながる 企業による体験活動

**山本** 地域の教育力向上が叫ばれるなか、企業など多様なステークホルダーによる積極的な参画が必要ですね。文部科学省では「青少年の体験活動推進企業表彰」を設けるなど、企業の主体的な取り組みを推進しています。

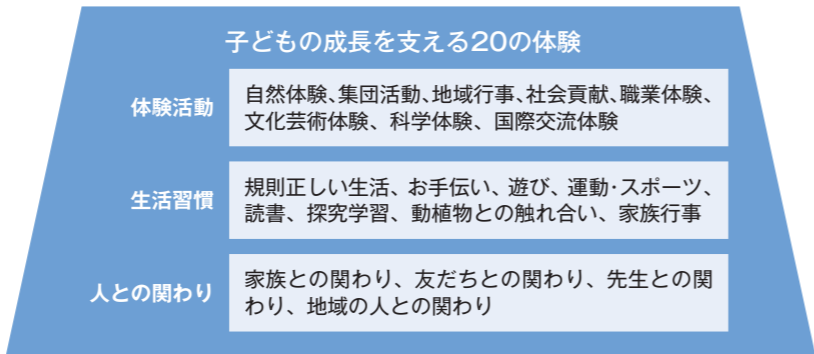
**青木** 体験活動では、それによってどういう学びを得るのかが問われますが、同時に大人がどう関わるかも重要です。

今の子どもたちは、大人とのつながりの選択肢が非常に少なく、親が学校、塾の先生くらいです。そうしたなかで、普段は身の回りにいない第三者の大人と関わることは、子どもにとってめったにない経験であり、子どもたちの学びや価値づけに大きく影響していきます。保護者の方々や学校の先生方には、ぜひ、子ども

**山本** 今、青木先生から多様な大人との関わり的重要性が指摘されました。では、そうした体験活動が子どものキャリア形成にどう影響するのか。キャリア教育に詳しく、学校における教科外活動などを研究されている京免先生にお聞きしたいと思います。

**京免** 社会的・職業的な自立に向けて必要な基盤となる能力や態度は、幼少期からの経験の積み重ねで形成されていきます。さまざまな活動の中で多様な役割を担い、それに対して自分なりに価値づけをしなが

## ■体験を通じて育成したい12の資質・能力



国立青少年教育振興機構 (2020) 『発達段階に応じた望ましい体験の在り方 (体験カリキュラム)』の枠組みの検討 (中間まとめ)

徐々に将来のキャリアを描いていくわけですが。

子どもが積み重ねる経験には、大きく分けて「日常的なもの」と「非日常的なもの」の2種類があります。日常的な経験とは、簡単にいえば学校や家庭での生活です。ところが今、この日常の世界が子どもにとってリアルティのないものとなっています。科学技術の進歩などにより世の中が便利になった反面、実物を見たり、さわったりする機会が減り、日常生活の中で現実感が乏しくなってい



青木 康太郎氏  
國學院大學  
人間開発学部子ども支援学科 准教授

国立青少年教育振興機構などを経て現職。現在は、幼稚園教諭・保育士の養成に携わりながら、体験活動の教育効果や安全管理の研究、自然体験活動の指導者・ボランティアの養成、体験活動に関する啓発活動に取り組んでいる。文部科学省生涯学習調査官ほか。



池田 幸恭氏  
和洋女子大学  
人文学部心理学科 准教授

中学校における心の教室相談員等を経て現職。青年心理学を専門とし、親に対する感謝という観点から、青年の自立や生き方について研究。自己理解を促す大学教育の実践、青年期の心理と発達理解と支援に取り組む。国立青少年教育振興機構客員研究員ほか。



体験活動 (山登り) を楽しむ子どもたち  
(国立青少年教育振興機構)

## 「青少年の体験活動推進企業表彰」とは？

文部科学省では、青少年の体験活動の推進を図ることを目的として、「青少年の体験活動推進企業表彰」を実施し、企業がCSRや社会貢献活動の一環として実践した、優れた「体験活動」を全国に広く紹介している。

対象となるのは、企業が社会貢献活動として主催した体験活動（企業が本来業務として実施する営利活動は対象外）で、参加する青少年（保護者等を含む）を公募して行われたもの。体験活動は大きく、①生活・文化体験活動、②自然体験活動、③社会体験活動の3つに分類されている。

過去の実績企業は以下のサイトで閲覧が可能だ。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/ikusei/taiken/1296811.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken/1296811.htm)



京免 徹雄氏

筑波大学  
人間系 助教

郡山女子大学短期大学部、愛知教育大学を経て現職。キャリア教育・教科外活動の国際比較研究を行いながら、この分野における教師の養成・研修に取り組んでいる。日本キャリア教育学会理事、日本職業教育学会理事、日本特別活動学会常任理事ほか。

るのです。学校でも、教科という枠組み、教室という空間の中で、学ぶリアリティをなかなか感じられないのではないのでしょうか。

しかし、いずれ子どもたちはこの世界を出て、リアルな大人の社会で役割を果たさなければなりません。そこで重要になるのが非日常な経験、すなわち体験活動などでリアルな世界に触れることです。それによって、子どものキャリアは豊かなものになつていくと考えています。

**山本** 体験活動が、どのように子どものキャリアを豊かにするのでしょうか。

**京免** 例えば、自然の中で役割を担って活動をするという体験は、子どもが将来を展望するきっかけになります。その役割を通じて、「何をしている自分だったら、社会のために役立つ」と実感でき、やりがい



山本 裕之氏

文部科学省 総合教育政策局  
地域学習推進課 青少年教育室事業係長

子どもと距離を取り、友人関係や地域に目を向けさせ、その中に入っていかなければなりません。こうしたプロセスをたどることが、子どもの心を発達させる上でとても重要になるのです。

**山本** 保護者はわが子とどう距離を取るか、悩むことになりませんか。

**池田** 離れることは大切ですが、いきなり距離を置くのはよくありません。例えば、子どもに体験活動をさせてそこで終わりにするのはなく、その後、親子で会話をすることが重要です。子どもが何かを体験した後、保護者と会話をすることで、体験を通じて感じたこと、学んだことを、自分の中で整理できるからです。今後はキャリア教育も学校教育の一環としてより一層推進されていきますから、子どもがそういう話を持つて帰ってきたら、ぜひ一緒に会話を

を感じるか」というところまで考えられるようになるからです。日常では経験できない活動に取り組みることが、「ライフテーマ」や「生きる意味」を探すことにつながるのです。

今後は、この「生きる意味」に合わせるキャリアを築く時代になっていきます。バブル期前までは、就職時に一度大きな選択をすれば、あとはそのまま終着地点に着く「汽車型」のキャリア形成で済みました。その後バブルが弾け、自分なりに何度か選択をしていく「自動車型」が求められるようになりました。しかし、これからの時代は、自分で道を切り開いていかなければならない「ブルドーザー型」のキャリア形成が必要になります。その際に拠り所となるのが、「自分は何のために生きるのか」という「ライフテーマ」なのです。

「生きる意味」を考えさせる体験活動は、今後ますます重要になっていくことでしょう。こうした活動は家庭や学校だけで担えるものではありません。社会全体で支えていく必要があり、なかでも企業という存在は、非常に大きな資源になり得ると

考えています。

**注意したい親子の距離感 活動後の「会話」を大切に**

**山本** 体験活動を行うにあたり、保護者ができること、注意すべきことは何でしょうか。心理学の面から親子関係について研究されている池田先生にお聞きしたいと思います。

**池田** 保護者の方々はさまざまな情報を収集・活用しながら、真摯に子育てに向き合っていることでしょうか。ただ、発達心理学の観点でいうと、親子関係は子どもの成長とともに変化していくものだということを忘れないでいただきたいと思っています。

体験活動に取り組む際、子どもが幼いうちは保護者の存在が不可欠です。子どもが関心のある体験にチャレンジできるように、親がチャンスを作ったり、一緒に楽しんだりすることは大切です。しかし、その際に注意したいのは、親と子どもの距離感です。例えば、親が「自分が好きだから子どももきつと好きだろう」という想いを強く出すと、それがポジティブな方向に働くこともありますが、子ども自身は「ちょっと違うな」と感じることもあります。また、そうした食い違いなどをきっかけに、いずれば子どもが「親と自分は別人だ」と気づくタイミングがやってくるのではないでしょうか。そのときには、親は子

**仕事と興味の6つのタイプ (RIASEC)**

R	現実 (Realistic)	もの、機械、動物などを対象とする具体的で実際的な役割 ex. 動植物管理、工学関連、機械の管理・運営、手工業
I	探求 (Investigative)	研究や調査などにより未知のことを明らかにする役割 ex. 自然科学、情報処理、社会調査、研究、医学
A	芸術 (Artistic)	独創的で美的感覚が求められる芸術的な役割 ex. 音楽、デザイン、演劇、美術工芸、舞踏、文芸
S	社会 (Social)	人に接したり奉仕したり対人関係を通して行う役割 ex. 社会福祉、教育、医療・保健、販売、サービス
E	企業 (Enterprising)	企画、組織運営、経営などリーダーシップが求められる役割 ex. 営業、報道、宣伝、経営管理
C	慣習 (Conventional)	方法が決められたことを着実にこなしていく役割 ex. 経理、事務、警備、法務、編集、校正

労働政策研究・研修機構 (2006) 『職業レディネス・テスト [第3版] 手引』 参照

していただきたいと思っています。

また、これからは体験活動やキャリア教育の場に、企業で働く方が参加するケースが増えてくると考えられます。当然、そうした人たちがわが子にとつてのキャリアモデル、憧れの存在となる可能性があります。ですから、さまざまな活動に参加させ、たくさん大人の価値観を持つ人々に会うきっかけをつくってほしいと思います。

実は、こうした活動は参加する子どもだけでなく、提供する側の大人にとつても大きな意義があります。大人が企業活動や地域コミュニティを通じて次世代育成に貢献する一つのきっかけになるのです。それは、「人生100年時代」において、非常に重要な意味を持つと考えています。

**企業の協力のもと、社会全体の利益につながる体験活動を**

**山本** 最後に、企業が体験活動を推進する意義について、お話をください。

**青木** これまで子どもがキャリアを考える際に紹介されるのは、著名人の例ばかりでした。そうしたなか、企業による体験活動やキャリア教育を通じて、一般の大人がどういうことを経験して、どう思うかという点に働いている

かを知ることが、子どもにとつて将来の大きな糧となります。今の地域社会には、働く大人とのコミュニケーションを通して仕事に興味を持ったり憧れを持ったりする機会が欠けていますから、企業の方々の活躍を期待したいですね。

多くの子どもたちが将来働く場は企業となるでしょうから、子どもたちにも働く大人の姿を見せる、働くことの楽しさを伝える、企業理念や企業活動の意義を子どもたちに伝えるということをしていただきたいです。ね。それによつて子どもたちは、「自分たちにどういう道があるのか」、さらには「自分たちが何をつくり出していきたいのか」ということを考えるようになると思います。

**京免** 非日常としての体験活動には、子どもの価値観や将来に対するビジョンを一気に変え、「やり抜く力」や情熱、協働する力を大きく育てるパワーがあります。

こうした体験活動には、子どもを自立した職業人に育てるキャリア教育だけでなく、他者貢献の精神を持つ自立した市民を育成するシチズンシップ教育としての一面があることも知ってほしいと思います。そして、この体験活動をより充実したものにするには、企業も含めた地域・社会の協力が不可欠です。特に企業が行っている体験活動は、子どもにとつても企業にとつても身近で有効な社会

参画の場になっていくのではないかと期待しています。

**池田** テクノロジーの進展とともに、あらゆるもののブラックボックス化が進んでいます。そうした社会では、つい受け身になってしまいがちです。だからこそ、自ら疑問を持ち、未知なものに挑戦していくことが重要になります。そうした姿勢を育む取り組みとして、今後ますます体験活動が注目されることでしょう。自然との触れ合いや社会とのつながりを実感させてくれるような体験活動を、企業が推進していく意義は非常に大きいと思います。

また家庭内だけでなく、企業や社会全体で体験活動に取り組むことは、子どもの発達、成長に大きく寄与すると同時に、私たち大人を成長させるという面も持っています。そうした体験活動を推進することは、子どもはもちろん、企業や社会全体の利益にもなっていくわけですから、その意義を積極的に発信し続けていくことが非常に重要だと考えています。

**山本** まさに、その通りですね。体験活動やキャリア教育を展開することとは、今、世界で大きな課題となっているSDGsへの取り組みを推進することにもつながります。これからも、体験活動の重要性を広く社会に伝えていかなければと思います。本日はありがとうございました。

企業発 体験活動

サントリーホールディングス株式会社

# 「水の恵み」がものづくりの生命線 豊かな自然を未来に引きつぐために 独自のプログラム「水育」を展開

社会との約束「水と生きる」  
「天然水の森」活動の二環として  
次世代環境教育に取り組む

自然本来のおいしさを生かしたミネラルウォーター「サントリー天然水」や本格派ビールとして人気の高



「森と水の学校」に参加し、自然と触れ合い、水の大切さを実感する子どもたち

い「ザ・プレミアム・モルツ」など、誰もがなじみのさまざまな飲料を世に送り続けるサントリー。そのものづくりは、水の恵みがなければ不可能である。

だからこそサントリーは、人々が、社会や美しい自然環境と共生することを目指した「人と自然と響きあう」という企業理念のもと、「水と生きる」という約束を掲げている。

50年後、100年後も、自然と共生するものづくりや、天然水の恵みを届けていくためには、天然水を育んでくれる自然を守り抜いていくことが欠かせない。そこで同社は、工場水源涵養エリアを保全するサントリー「天然水の森」活動や、工場で使用する水の3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動などを長年にわたって行っている。

一般に、こうした企業の森林整備活動はボランティアの域を出ないこともあるが、水こそが自社にとって最も重要な原料であり、かつ社会の貴

重な共有資源でもあるから、「水の持続可能性（サステナビリティ）」を支える基幹事業と捉えているのが特徴だ。まさに、「水と生きる」ことに真摯に取り組んでいるのである。

そうした取り組みの一つとして、サントリーが2004年から続けているのが、次世代環境教育「水育」である。

## 自然を体感し 水を育む森の大切さを学ぶ 「森と水の学校」「出張授業」

サントリーの次世代環境教育「水育」には、夏休みに行う自然体験プログラム「森と水の学校」と、小学校の授業の一環として水や自然の大切さを伝える「出張授業」の2つのプログラムが用意されている。

「森と水の学校」は、「サントリー天然水」の工場がある白州（山梨県）、奥大山（鳥取県）、阿蘇（熊本県）の「サントリー天然水」のふるさとで小

学的・対話的で深い学びに対応しており、授業の1単元として扱うことができる。

どちらも体験を重視したプログラムだが、なかでも「森と水の学校」では、実際に森に入り、木々やふかふかな土、湧き水や溪流に触れる体験を通して、森と水のつながりを実感できる貴重な機会となっているようだ。このプログラムによって、サントリーは文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰」において、2019年度に審査委員会奨励賞を、2020年度には審査委員会優秀賞を受賞している。



水育講師による「出張授業」の様子。映像や実験を通して自然の仕組みや大切さを学ぶ

学3〜6年生の子どもたちと保護者を対象に、自然との触れ合いを通じて水の大切さや、その水を育む森を守ることの重要性を知ってもらうプログラムだ。地元専門家とサントリーがチームを組んで、楽しく、わかりやすい体験学習を行っている。安全面でも、事前の研修やフィールドでのシミュレーションを徹底し、消防や病院とも連携している。2004年に開校し、2020年までにオンラインでの開催を含め約2万7000名の親子が参加した。

一方、「出張授業」は、学校現場を訪問し、映像や実験を通じて、自然の仕組みや大切さを学び、未来に水を引きつぐために何ができるのかを考える授業だ。首都圏と京阪神、中京圏のほか、「天然水」の工場のある山梨県、長野県、鳥取県、熊本県で実

施しており、2020年までにオンラインでの開催も含め約2100校、約16万3800名の児童が参加している。小学4〜5年生を対象とし、担任の先生と、サントリーが派遣する水育講師と一緒に授業を行うのが特徴である。2020年度から全面实施していく学習指導要領に即した主体

### 水育「森と水の学校」

## オンラインライブ配信でも実施

「森と水の学校」では、森の中でのリアルな自然体験を通じて、水について主体的に考える学びの機会が得られる。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、リアルなコミュニケーションだけでなくオンラインでの重要性が高まったことから、サントリーは2020年10月からオンラインライブ配信も開始した。

自宅で自然体験ができる「森と水の学校」リモート校は、オンラインならではの映像コンテンツとライブ配信を組み合わせた対話型のプログラム。事前には送付する自然体感キットで、より理解を深められるような工夫が凝らされている。



### 参加したお子様の声

- 森と水の関係がとてもよくわかった。森と水の関係は大人になるまで、そして大人になってもわすれないようにしたいです。(森と水の学校 参加)
- 生きている中でも、水をつかいすぎない、つかわない時は、とめるなどと、工夫したいです。(出張授業 参加)



## 企業からのメッセージ

サントリーは、「良質な天然水こそがわたしたちの生命線である」という想いのもと、貴重な資源としての水を守り、育み、大切に使うことに責任を持って取り組んでいます。

その取り組みの一環として2004年に開始した次世代環境教育「水育」

は、今年で18年目を迎えました。より多くのお子さんや、遠方のお子さんでもご参加いただけるように、2020年からオンラインによるプログラムも提供しています。オンラインならではの表現方法やコミュニケーション方法も活用しながら水の大切さをわかりやすく伝えておりますので、ぜひご参加ください。

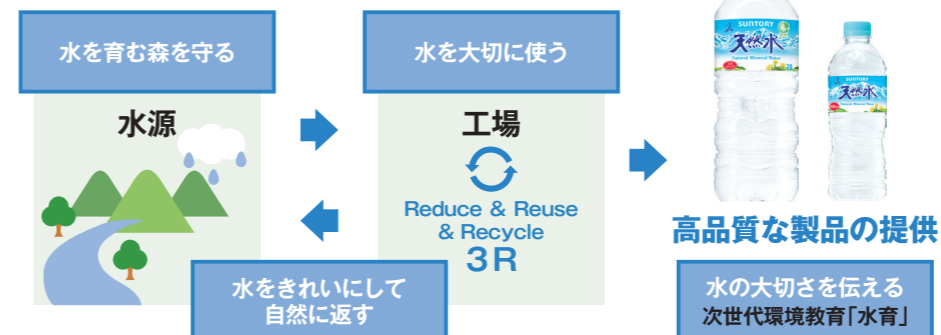
## 水と生きる SUNTORY

詳しくは、サントリー次世代環境教育「水育」のホームページをご覧ください。



<https://mizuiku.suntory.jp>

## ●サントリーの国内での「水」への取り組み



企業発 体験活動

株式会社ダスキン

# 「掃除体験」は環境教育の第一歩 3つの学校教育支援プログラムで 子どもたちの協働力を育む

教育現場での悩みは掃除の指導法が分からないこと

ダスキンが学校教育支援活動を本格的にスタートさせたのは2000年から。きっかけは、全国の教育現場で教師たちが直面している、困り

ことについて、自社調査で知ったことだった。現在、活動の中心的な役割を担う、ダスキンお掃除教育研究所所長の藤原玲子氏は、その「困りごと」を次のように説明してくれた。「全国の小・中学校では当時も毎日15分間、ほうき・ちりとり・ぞうきんを使う『掃除の時間』があります。ところが現場の先生方は、掃除方法や用具の使い方について専門知識があるわけではありません。教科の指導法は学んでも、掃除の指導法について学んだ経験がないからです。しかも今の時代は、ほうき・ちりとり・ぞうきんを使ったことのない子どもたちがほとんど。そのため、全国の多くの先生方は、掃除の仕方を子どもたちにどう教えられるのか、日々頭を悩ませていると伺っています」

そうであれば、掃除のプロ集団である自分たちにも、全国の教育現場でお役に立てることがあるのではないか。そうした気づきと、「掃除の大切



株式会社ダスキン  
ダスキンお掃除教育研究所 所長  
藤原 玲子 氏

切さを子どもたちに伝えたい」という企業の思いが重なり合ったところから、ダスキンの「学校教育支援活動」がスタートした。これは「しよに」は始まったという。

学校の掃除時間は年間3000分  
この時間を有効に活用してほしい

ダスキンが現在進めている学校教育支援活動は、教育支援カリキュラム（教材提供）、教員向けセミナー、出前授業の3本の柱で成り立っている。このうち2004年度から始まった

のが、教育支援カリキュラムだ。「児童・生徒に掃除をどう教えていいかわからない」という教師の声に応えたもので、多くの教師たちの意見を参考に作成。掃除について楽しく学べ、家庭生活にも活かせる内容になっている。

2008年度からスタートした教員向けセミナーは、教育支援カリキュラムを一步進めた取り組みで、教師自身に直接働きかけ、学校掃除に関する基礎知識と指導方法を実践的に学んでもらうもの。毎年20〜30の会場で実施されている。

「小・中学校の掃除の時間は1日約15分ですが、年間200日で積算すると約3000分にもなります。小学校は45分授業なので約66コマ分。これだけの時間を有効に使わないのはもったいない話です。子どもたちには日々の掃除を通して、協調性やコミュニケーション力などをぜひ伸ばしていつてほしいと思います。そのためにも必要なお手伝いは何でもやっていこうと考えています」（藤原氏）



出前授業でぞうきん絞りを体験。「こうすれば、簡単にしっかりと絞れるんだ」と驚く子どもたち



教員向けセミナーの様子。掃除の指導を通して子どもたちの力を育むためのワークショップ

学校掃除サポーターの活躍で  
出前授業は全国で大盛況

出前授業「キレイのタネまき教室」は、教員向けセミナーを受講した教師たちから「掃除の大切さを掃除のプロから、ぜひ子どもたちに直接伝

えてほしい」と要望され、2012年度からスタート。2019年度までに全国延べ約3400校の児童約29万人が出前授業を体験している。授業は主に「総合的な学習」や「家庭科」の時間を使って行われ、「なぜ掃除が大切なのか」と「掃除用具の正しい使い方」を二大テーマに、多目的教室などで実施されている。

「教室内にバケツを並べ、参加児童全員に少なくとも1回以上、正しいぞうきん絞りを体験してもらいます。横向きではなく縦向きに絞ると、ぞうきんが棒みたいになって硬くなるので、多くの児童が驚きの声を上げますね。出前授業で最も盛り上がる瞬間です」（藤原氏）

この活動は、ダスキン本部だけでなく、活動に賛同し研修を受けた加盟店スタッフによる「学校掃除サポーター」（全国に600名以上）と共に

参加者の声（出前授業）

- 教えてもらったことを守って、ゴミがひとつもなくなるように、しっかりと、4年生になるまでがんばります。（小3）
- ぼくはぞうきんの使い方を教えてもらってよかったです。これからは、ぞうきんのしぼり方ができていない人に、教えてあげたいと思います。（小6）



取り組んでいるのが特徴だ。座学と実技の厳しい研修を経てサポーターとして認定されれば（3年更新）、地元の小中学校で出前授業を実施できる。

地域密着で全国にフランチャイズ展開しているダスキンならではの強みといえるだろう。

「児童たちの掃除に対する意識がガラリと変わった」「たてしほり」とリズムよく、ぞうきんを洗っている児童がいる」など、出前授業に対する学校サイドの評価はきわめて高い。それが文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」において、2016年度（審査委員会特別賞）、19年度（審査委員会優秀賞）の受賞につながったのだろう。また、加盟店サイドからも「子どもたちにかりやすく語りかける経験を通して、顧客に対する訴求力が向上した」など、多くの「出前授業効果」が報告されているという。

子ども向けweb教材

## おそうじピカピカ ころもピカピカ 「お家でおそうじチャレンジ」

新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちも家で過ごす時間が増えた。また、文部科学省がGIGAスクール構想を打ち出したこともあり、新たに開発されたのが「お家でおそうじチャレンジ」というオンライン教材。お家の5つの場所（窓ガラス・床・シンク・玄関・お風呂）をきれいに「おそうじチャレンジ」のミッション（参考動画付き）と、掃除の基礎知識が楽しく学べる「おそうじクイズ」で構成されている。小学校全学年で活用でき、特に小学5年生に対しては家庭科の授業とも連動している。2020年11月1日から公開して



おり、ダスキンのホームページから誰でもアクセスが可能。



<https://www.duskin.co.jp/torikumi/gakko/kids/>

## 企業からのメッセージ

今、学校教育が大きく変わろうとしています。従来の知識詰め込み型教育から脱して、児童・生徒自ら課題を見つけ、他者と協働して解決していく能力が求められるようになりました。しかし一方で、学校における掃除の時間は数十年前から変わっていません。そこにこそ、弊社が社会貢献できる場があると考えました。

掃除のプロとして、環境を美しくする意義を子どもたちに伝え、その正しい方法を習得してもらうことは、子どもたちが生きていくうえで大切なことだと考えます。

そして、このコロナ禍においては、掃除をすることで自分たちの身のまわりを自分たちで整え「清潔にする」という意識を持つことは、さらに大切なことだといえるのではないのでしょうか。文部科学省から出された「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」にも通常の清掃活動の一環として、従来にはなかった「家庭用洗剤等を用いた拭き掃除」などが記されています。「お掃除の会社」として、これからの学校掃除の在り方など提案していかなければいけないと考えております。

「掃除を通して子どもたちを守る！」  
私たちはこれからも社会の一員として、ご家庭や学校と連携しながら、子どもたちの未来を担う活動を続けていきます。

企業発 体験活動

森ビル株式会社

# 本物の「街（ヒルズ）」を舞台に、 未来の街づくりについて考える 親子向け体験活動プログラム

街づくりを通じて多様な学びを提供

創業から約60年間にわたり地域と共に街づくりを推進してきた総合ディベロッパーの森ビル。次世代を担う子どもたちに「街」の魅力や「街づくり」のノウハウを伝えながら、

子どもたちと共に未来の街づくりについて考える機会として開催しているのが、「ヒルズ街育プロジェクト」だ。森ビルが大切にしている「安全・安心」「環境緑」「文化芸術」をテーマにした多様なプログラムで、小学生の親子を対象に、無料で開催している。

「森ビルが運営する六本木ヒルズやアークヒルズは、住む、働く、憩う、交流する、遊ぶなど、人々のあらゆる活動の舞台である「街」です。本物の街を生きた教材として活用し、子どもたちの五感を刺激し、多様な学びにつなげていきます」と説明するのは、プロジェクトを企画・運営する同社広報室の田部麗氏である。

例えば、六本木ヒルズの裏側を探検する「六本木ヒルズのヒミツ探検ダイジェストツアー」は、夏休みに開催する代表的なツアーだ。普段は入ることができない備蓄倉庫や屋上庭園を探検し、街づくりの舞台裏を体感する。また、春には環境とみどりをテーマに、ヒルズの緑の中で生き物や植物を探すツアーを、秋には日本文化をテーマに、お寺で坐禅体験のツアーを開催するなど、季節に応じて多種多様な内容を展開。触ったり、耳を澄ませたり、香りをかいだり、声に出したりと、全身を使って街を体感することで、子どもたち

参加者の声

- 普段立ち入ることのできない場所に連れて行ってもらい、とても貴重で楽しい体験ができました。
- ヒキガエルを見た時はびっくりした。今度また見つけたら自分でも観察してみたい。
- 地区によって住みやすさや環境は全然違うけど、協力して街について考え、つくって、楽しかった。
- 未来の東京のことを考えるとワクワクして面白かった。自分も街づくりをしてみたいと思いました。



双眼鏡を使って都心の鳥たちを観察。街づくりにおける緑の大切さを学ぶ



みんなで力を合わせ、ブロックで理想の街づくりに挑戦する子どもたち



10万食の食料や医薬品が保管された、民間企業としては最大規模の震災備蓄倉庫を見学

## 最も身近な社会としての「街」 社会課題に主体的に関わる姿勢を育む 広報室 北村 拓海氏



参加した子どもと「30年後の六本木ヒルズ」を考える北村さん

そもそも街づくりとは、地域の皆さんをはじめ、さまざまな方々と共に考え、共に歩みを進めることで、より良い街をつくりあげていくものです。そういう意味では、未来を担う子どもたちに街を考えてもらうきっかけを提供し、自分たちの住む街や身近なコミュニティ活動に主体的に関わろうとする姿勢を育むこのプログラム自体、未来を拓く街づくりそのものとも言えます。

未来の担い手である子どもたちには、身の回りの社会課題に対して意見を持ち、解決に向けて取り組んでいく姿勢が今後ますます求められていくのではないのでしょうか。そんな時代にあって、自分の最も近い社会である「街」に興味を持ち、積極的に関わる姿勢を育むことは、重要なテーマだと考えています。このプログラムが、子どもたちの無限の可能性を拓き、未来の街づくりにつながっていくことを願い、これからもさまざまなツアーを企画していきます。

昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、リアルなツアーの開催を見送り、試行錯誤のうえ、2020年9月にオンラインツアーをスタートした。事前に参加者に教材を送付し、実験をしたり、キットを手にとったりしながらツアーを進める。街育の特徴である「体験・体感」を実現するために工夫を凝らした内容となっている。また、クイズの出題やチャットボックスへの感想・疑問の書き込みを促すなど、双方向コミュニケーションも大切にしている。

田部氏は、「オンライン化により大阪や兵庫など全国から、そしてオーストラリアなどの海外からもご参加いただきました。今後も、一人でも多くの子どもたちに、未来の街に興味を持ってもらえるよう、取り組みをさらに拡大していきたいですね」と語った。

## 企業からのメッセージ

「ヒルズ街育プロジェクト」は、森ビルの運営する「街」に親子でお越し頂き、探検しながら楽しく学ぶプログラムです。そのため、従来は近隣小学校をはじめ東京近郊からの参加が中心でした。2020年からはオンラインツアーもスタートし、これまで参加が難しかった

全国の子どもたち、さらには海外に住む皆さまにも、プログラムを提供することが可能となりました。街（ヒルズ）を題材に、自分が住む街について考えられるプログラムとなっていますので、ぜひさまざまな地域の方々に参加頂きたいと思っております。最新の情報は、ホームページをご覧ください。  
<https://www.mori.co.jp/machiiku/>



けやき坂コンプレックスの「屋上庭園」。田んぼや四季折々の植物が目を楽しませてくれる

臣賞に次ぐ審査委員会優秀賞を受賞している。

「子どもたちに、いかに興味を持って楽しく、深く、学んでもらうかを一番に考えています。そして、子どもたちがこれからの社会を生き抜いていくために必要な能力を向上させる一助となることも意識して内容を工夫しています」（田部氏）

ブロック模型を使った街づくりワークショップ「街づくりのヒミツ探検ツアー」は、自分の住む街の好きなどころや、将来住みたい街について、子どもたちが考え、「理想の街」

「街づくりを体感する」といって、これからの時代に求められる姿勢を養う

## 今後はオンラインとリアルのハイブリット型でツアーを開催



# 未来を楽しくするために、

**私** たちが生きていくうえでとても大切な水。その水を守り、大切に使うことは、地球に生きる私たちに責任があります。サントリーでは美しい水を未来へとつなぐ環境活動を行っています。皆さんも、大切な水をこれからも使い続けていくために、どんなことができるか考え、行動してみてください。未来に水をひきつぐために、私たちも活動を続けていきます。皆さんも水について考え続けてほしいと願います。

サントリーホールディングス株式会社  
サステナビリティ推進部



**お** そうじをして自分の身のまわりを整え、きれいにすることは、自分が気持ち良いだけではなく、周りにも気持ち良くなります。そして笑顔があふれます。

私たちは、おそうじを通して「喜びのタネをまく」会社でありたいと思っています。

みなさんもご家族・お友だちと「おそうじ」について学び、私たちと一緒に「喜びのキレイのタネ」をまきませんか？

株式会社ダスキン



# 今、何をしたらいい？

これからの時代を生きる  
キミたちへの  
応援メッセージ

**大** 人になるために必要な力は学力だけではありません。人と一緒に仕事をするにはコミュニケーション力や協調性が必要になります。また、難しいことがあっても最後までやり抜ける力や、大人としての礼儀作法を身につけておくことも大切です。

では、このような力はどのように身につけられるのでしょうか。答えは、さまざまな経験をたくさんすることです。たとえば、自然の中で友だちと一緒に遊んだり、地域の行事に参加したり、ボランティア活動に挑戦してみるのもいいでしょう。そして、いろいろな人たちとたくさんかかわってください。こうした経験を積み重ねることで、将来に役立つ力を身につけることができます。

よりよい未来を創るにはみなさんの力が必要です。  
ぜひいろいろな活動に挑戦してみてください！

青木康太郎  
國學院大学 人間開発学部子ども支援学科  
准教授

**み** さんには、「こういう大人になりたい」という人がいますか。

身近な人でも、テレビやインターネットで知っている人でも、マンガや映画の登場人物でもかまいません。その人のどのようなところにあこがれたり、「すごい」と思ったりするのか、ぜひ考えてみてください。そこで気がついたことを一つでも、毎日の生活のなかでまねをしたり、ためしたりすることがおすすめです。そのような大人が思いうかばない場合には、いろいろな体験活動にぜひチャレンジしてみてください。きっとたくさんの出会いがあるはずですよ。

そのような出会いや体験のなかで、あなた自身が感じる「好き」や「楽しい」、「すごい」という気持ちを大切にしてください。

池田幸恭  
和洋女子大学 人文学部心理学科 准教授

**AI** の登場によりこれからの時代、多くの仕事は生まれ

たり、消えたりすると予想されます。だからこそ、いろいろな体験をして人生の選択肢を広げることが大切です。

好きなことに打ち込むだけでなく、あまり興味がないと感じることにあえてチャレンジしてみよう。

きっと思ってもいない出会いや発見があるはずですよ。そして、知らなかった世界に触れる中で、「どんな自分になりたいか」を考え、家族の方や友だちにお話してみてください。

目標を誰かに語ることは、それを実現するエネルギーになります。また、なりたい大人になれたとき、「まわりの人に何をしてあげたいか」や「どんな社会であってほしいか」も想像してみましょう。人生の主人公は自分自身ですが、1人の力だけでは幸せになれません。

お互いに支え合うことによって、人生が豊かなものになります。

京免徹雄  
筑波大学 人間系 助教

**人** 間はまわりの“社会”からたくさん学んで成長していきます。ぜひ、いちばん身近な“社会”である「自分の街」に興味を持ってみてください。

「街」を歩き回ったり、「街」の歴史を調べたり、「街」のイベントに参加したりすると、学校の教室では気づけないような新しい発見や、さまざまな世代の人たちとの出会いがあります。こうした“生きた”体験こそが、皆さんの世界を大きく広げてくれるものです。いろいろなことがオンラインでできる時代だからこそ、自分の足で歩き、自分の目で見て、自分の肌で感じる。ぜひ、五感を活かして「街」から多くを学んでほしいと思います。

森ビル株式会社 広報室

